

アーチェリー

専門委員長 高橋 六樹



まずは、各大会において、会場準備や大会運営など支えてくださった関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

専門委員長として掲げた今年度のテーマは、「できない理由」を探すより「できる理由(方法)」を考えろ、です。

練習は4か月近く停止し、ほぼすべての大会が中止となり、競技力の向上や、それを確かめる機会をも奪われる形でした。しかしながら、選手たちは各々で工夫をし、自宅に射場を仮設したり、トレーニングを続けたりと、努力を重ねてくれました。

学校再開後、就職や進学の実験が迫っていたため、やむを得ず競技から離れた選手もおりましたが、徳島科学技術高校のアーチェリー場には、新入生を含む32名が集い、念願のアーチェリー競技を再開しました。

延期を余儀なくされた県高校総体は、8月8日に、徳島科学技術高校のアーチェリー場にて実施しました。本射場において県総体を実施することは初の試みでした

が、徳島県アーチェリー協会のご協力により、感染症対策を徹底したうえで、代替大会を実施することができました。出場者は例年の半数以下に留まりましたが、3年生と2年生が競い合い、白熱した大会となりました。

振り返ればこの3年生は、旧射場の取り壊しから新射場の竣工まで、その競技人生の大半を、薄暗い中庭で過ごし、ただひたすらに畳に矢を打ち続ける日々でした。新射場が完成した後も、その注目を一身に浴びながら、施設の立ち上げ準備や外部団体の受け入れ、報道対応など、問題解決に奔走してくれた素晴らしい選手たちです。

優勝決定戦に先だって行われた3位決定戦は、それまで苦労続きだった3年生が見事に勝利を勝ち取り、涙涙の感動の一戦でした。

11月以降も射場の改修工事のため、練習環境が整わない状況となっておりますが、「できない理由」を探すのではなく、この状況下で「できる方法」を考えて、射場内で工夫を凝らした練習と、徳島科学技術高校の第2グラウンドや、鳴門フィールドアーチェリー場へ出向くなどして、少しでも競技力を向上させようと、選手は前を向いて進化を続けています。支えて下さる皆様のご期待に応えられる日が近づいていると確信しています。ご期待ください。

◎全国高校選抜 令2.3.26~28

於 静岡県掛川市 つま恋「多目的広場特設会場」
中止

3位決定戦 三原 孝大 (科技) $\frac{6}{4}$ 3位
大垣 遥豊 (科技)

◎県高校総体代替大会 令2.8.8

於 徳島科学技術高校アーチェリー場 (徳島市)

<男子団体>

実施なし

<男子個人>

優勝 佐々木 陸斗 (科技)

準優勝 松本 一輝 (科技)

3位 三原 孝大 (科技)

4位 大垣 遥豊 (科技)

5位 井向 彼方 (科技)

2 松本 一輝 (科技) $\frac{6}{0}$
5 三原 孝大 (科技) $\frac{6}{0}$
3 大垣 遥豊 (科技) $\frac{6}{4}$
4 井向 彼方 (科技) $\frac{6}{4}$
1 佐々木 陸斗 (科技) $\frac{6}{6}$

優勝
佐々木陸斗

※左側の数字は予選順位

<女子団体>

実施なし

<女子個人>

優勝 虎尾 野乃花 (科技)

準優勝 白木 里実 (科技)

1 虎尾 野乃花 (科技) $\frac{6}{0}$ 優勝
2 白木 里実 (科技) $\frac{6}{0}$ 虎尾野乃花

※左側の数字は予選順位

◎第5回四国高校アーチェリー選手権

中止

◎全国高校総体

中止

